



2013 年度第 2 四半期決算報告書

参考和訳

プレスリリース
2013 年 7 月 31 日、パリ発

依然として厳しい欧州の経済環境のなか
株主帰属純利益 **18 億ユーロ** を達成

多様化した業態および地域別構成が奏功し、底堅い営業収益

事業部門の営業収益：
12 年度第 2 四半期比安定推移

継続的なコスト削減努力に **SIMPLE & EFFICIENT** 計画の初期効果も寄与

事業部門の営業費用：**12 年度第 2 四半期比 -1.0%**

景気低迷にもかかわらずリスク費用は穏やかな水準

リスク費用：**11 億 900 万ユーロ (68 ベーシスポイント)**

盤石な財務体質

- 非常に高い自己資本比率

バーゼル 3 基準全面適用のエクイティ **TIER 1 比率：10.4%**

- 即時利用可能な余剰資金は潤沢

2360 億ユーロ (13 年 6 月末現在)

- 全リテールネットワークを通じた預金の集積は高水準を維持

リテールバンキング部門の預金残高：**12 年度第 2 四半期末比 +6.4%**



2013年7月30日にBNPパリバ取締役会が開催され、ボードゥアン・プロ会長が議長を務めるなか、当グループの2013年度第2四半期の業績が検討され、また、当上半期に関わる中間決算報告書が承認されました。

依然として厳しい欧州の経済環境のなか、株主帰属純利益 18 億ユーロを達成

欧州景気が停滞するなかにあっても、BNPパリバは2013年度第2四半期において確かな業績を収めました。

当四半期の営業収益は99億1700万ユーロとなり、2012年度第2四半期と比べて1.8%の減収となりました。当四半期の営業収益には、純額で1億5000万ユーロに上る次の2つの一時項目が含まれています：すなわち、Royal Park Investmentsの保有資産の売却による影響が2億1800万ユーロの増収要因であったのに対し、自己負債の再評価による修正額および「債務価値調整」(Debit Value Adjustment : DVA)による影響が6800万ユーロの減収要因となりました。多様化した業態および事業の地域別構成の恩恵を受け、事業部門の営業収益は底堅く推移し、リテールバンキング事業¹(+1.0%²)およびインベストメント・ソリューションズ事業(+3.1%²)は若干の増収であったのに対し、コーポレートバンキング・投資銀行(CIB)事業(-0.4%³)は微減となりました。

継続的なコスト抑制努力に加え「Simple & Efficient」(簡素化および効率化)計画の初期効果のおかげで、当四半期の営業費用は前年同期比0.7%減の62億9100万ユーロとなりました。営業費用には、Simple & Efficient計画に関わる変革のための一時費用7400万ユーロの影響が含まれています。営業費用を事業部門別にみると、リテールバンキング事業¹で0.5%⁴減少、インベストメント・ソリューションズ事業では0.2%²の微増、およびCIB事業では1.8%²の若干の増加でした。

当四半期の営業総利益は前年同期比3.6%減少し、36億2600万ユーロとなりました。なお、事業部門合計では前年同期比1.7%の増加を果たしました。

グループのリスク費用は、厳しい経済環境にもかかわらず穏やかな水準にとどまり、当四半期に11億900万ユーロで融資残高の68bpに相当しました。これは2012年度第2四半期から18bpの上昇でしたが、前年同期にはCIB事業において計上された多額の引当金戻入益が影響していました。当四半期のリスク費用は、2013年度第1四半期との比較では8bpの上昇でした。これにはとりわけCIB事業のアドバイザリー・アンド・キャピタルマーケット業務における一時費用が影響していました(+4bpの押し上げ要因)。

営業外損益は、当四半期において1億8300万ユーロの利益となりました。これに対し、2012年度第2四半期の営業外損益は7700万ユーロの利益でした。当四半期の営業外損益には、BNPパリバ・エジプト部門の売却に関わる8100万ユーロの一時的影響が含まれています。

グループの税引前利益は当四半期に27億ユーロとなり、前年同期比9.6%の減益でした。当四半期における一時項目の影響は+1億5700万ユーロであったのに対し、2012年度第2四半期には+2億7100万ユーロが計上されていました。なお、事業部門合計の税引前利益は、前年同期と比べて3.2%の減少にとどまりました。

以上から、BNPパリバは当四半期に株主帰属純利益17億6300万ユーロを計上し、2012年度第2四半期と比べて4.7%の減益となりました。

グループは盤石なバランスシートを有しています。自己資本比率は非常に高い水準を維持しています。バーゼル3基準(全面適用⁵)に基づくエクイティTier1(普通株式等Tier1)比率は、当四半期末において10.4%でした。エクイティTier1のみを対象としたバーゼル3全面適用のレバレッジレシオ⁵は3.4%⁶とな

¹ フランス国内プライベート・バンキングの100%を含み、PEL/CELの影響を除く。

² 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。

³ 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除き、かつ2012年度第2四半期の資産売却によるキャピタルゲインを除く。

⁴ 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除き、かつ「Hello bank!」プロジェクト始動にかかわる費用を除く。

⁵ 経過措置なしで全ての資本要求指令4(CRD4)規則を考慮し、BNPパリバがこれを適用して算定した、エクイティTier1比率。

⁶ バーゼル3基準全面適用によるレバレッジレシオは、当四半期末のTier1資本に基づき算定すると3.8%。



り、これは 2018 年 1 月 1 日以降に発効するレバレッジ規制が要求する 3%を既に上回っています。また、グループの即時利用可能な余剰資金は、当四半期末において 2360 億ユーロに上りました。

1 株当たり純資産額¹は当四半期に 61.6 ユーロとなり、2008 年 12 月末からの年平均成長率は 6.0%となりました。これは、BNP パリバが、景気サイクルを通して 1 株当たり純資産額を成長させる能力を有していることを証明するものです。

さらに、グループの機能のしかたを簡素化し業務効率の向上を図る意欲的な計画である Simple & Efficient については、2013 年度上半期において 3 億 3000 万ユーロに上る経常的な経費節減を達成することにより、計画の順調なスタートが確認されました。これには 2012 年末時点で予想されていた事案やプロジェクトの迅速な達成が貢献しました。グループ全体にわたり、2 千を超すプロジェクトからなる千以上の計画が立案されています。これらのうち 86%近くが既に始動しており、計画ごとに、責任者、予算、およびタイムテーブルが明確化されています。

2013 年度上半期全体で、グループは、厳しい経済環境にもかかわらず底堅い業績を収めました。営業収益は 199 億 7200 万ユーロに上り、2012 年度上半期と比べて-0.1%と、ほぼ横ばいでした。当上半期の営業収益には、+2 億 9900 万ユーロの一時項目が影響していました。対して、前年度上半期には-7 億 8800 万ユーロの一時項目が計上されていました。事業部門合計の営業収益は、当上半期に 3.1%の減収となりました。

営業費用は当上半期において 2.8%減少し 128 億 500 万ユーロとなったことを受けて、営業総利益は 71 億 6700 万ユーロに上り、前年同期比 5.3%の増益となりました。なお、事業部門合計の営業総利益は、当上半期において前年同期比 2.0%の減益でした。

リスク費用は当上半期に 20 億 8700 万ユーロとなり、前年度上半期と比べて 16.1%上昇しましたが、前年同期には CIB 事業で多額の引当金戻入益が計上されたことが影響していました。

営業利益は安定推移し、50 億 8000 万ユーロ（前年同期比 +1.5%）でした。

営業外損益は当上半期において 2 億 3500 万ユーロの利益でした。対して、前年同期の営業外損益は 19 億 2100 万ユーロの利益でしたが、これにはとりわけクレピエールに対するグループの 28.7%持分の売却により計上されたキャピタルゲイン 17 億 9000 万ユーロが貢献していました。

これらを受けて当上半期の税引前利益は 53 億 1500 万ユーロとなり、前年同期と比べて 23.3%減少しました。税引前利益に影響した一時項目は、当上半期において+1 億 5100 万ユーロであったのに対し、前年同期には+9 億 1800 万ユーロが計上されていました。

以上から、BNP パリバは当上半期において株主帰属純利益 33 億 4700 万ユーロを上げましたが、これは、クレピエールに対する持分売却益が計上された前年同期からは 29.1%の減益でした。

*
* *

リテールバンキング事業

国内市場部門

当四半期における国内市場部門の事業活動の結果、預金残高が 2012 年度第 2 四半期と比べて 6.1%増加し、また全てのネットワークで成長努力が継続されました。融資残高は、借入需要が引き続き減速したことから、

¹ 再評価を含まない。



前年同期末比で 1.7%減少しました。国内市場分門は、ベルギー、ドイツおよびフランスにおいて、新たな欧州のネット銀行として導入された”Hello bank!”（ハロー・バンク！）への協力を結集しました。

当四半期の営業収益¹は 39 億 7300 万ユーロに上り、2012 年度第 2 四半期と比べて僅かながらも増収（+0.3%）となりました。これには、長引く低金利環境および融資の伸び悩みにもかかわらず、手数料収入の復調およびアルバルの好業績が貢献しました。このような状況を受け、国内市場部門は引き続きコスト体質の調整を図った結果、当四半期における営業費用¹は 24 億 7700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1.3%² 減少しました。これにより営業収益対コスト比率は、フランス、ベルギーおよびイタリアで改善し、国内市場部門全体では 61.9%² となりました。

これらを受けて当四半期の営業総利益¹は 14 億 9600 万ユーロに上り、前年同期比 2.0%の増益となりました。

以上から、イタリアにおけるリスク費用の上昇を考慮し、またプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を、国内市場部門からインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、当四半期の税引前利益³は 9 億 8800 万ユーロとなり、2012 年度第 2 四半期と比べて 5.3%の減益となりました。従って国内市場部門は、厳しい経済環境に直面しながらも、継続的なコスト体質の調整努力が功を奏し、総じて堅調な業績を収めたといえます。

フランス国内リテールバンキング (FRB)

フランス国内リテールバンキング部門による事業活動の成果は、当四半期において再び、預金残高の着実な伸び（2012 年度第 2 四半期末比 5.9%増）に反映され、とりわけ普通預金の伸び（同 6.9%増）がこれを牽引しました。融資残高は、借入需要の低迷により前年同期末と比べて 2.7%の減少でした。中小企業（SME）に対する継続的なサポートは、2012 年 7 月に発足した“€5bn and 40,000 projects”（4 万のプロジェクトに 50 億ユーロの融資）運動が目標を上回る成果（2013 年 6 月末現在で 61,466 件のプロジェクトに対し 67 億の融資を実行）を収めただけでなく、10 か所の SME イノベーションハブの開設に表れています。そのおかげで、SME セグメントに対する融資残高は当四半期に+1.8%⁴増加しました。

当四半期の営業収益⁵は 17 億 4200 万ユーロとなり、2012 年度第 2 四半期と比べて 1.6%の減収でした。低金利環境が長引いたことと融資残高の減少とが相まって、純利息収入は 3.0%減少しました。なお、手数料収入は+0.6%と僅かに増加しました。

業務効率が引き続き改善したおかげで、営業費用⁵は 2012 年度第 2 四半期と比べて 1.9%減少しました。

当四半期の営業総利益⁵は 6 億 5500 万ユーロとなり、前年同期比 1.1%の減少でした。

リスク費用⁵は前年同期から安定推移し、融資残高の 24bp 相当で依然として低い水準にとどまりました。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、FRB の当四半期の税引前利益⁶は 5 億 3600 万ユーロとなり、前年同期と比べた減益幅は 2.2%にとどまりました。これは当部門の底堅い経常的な利益獲得能力を証明するものです。

¹ フランス（PEL/CEL の影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む。

² Hello bank! の発足費用（1600 万ユーロ）を除く。

³ PEL/CEL の影響を除く。

⁴ 出展：フランス銀行。独立系 SME 対象、年次スライド方式に基づく。

⁵ PEL/CEL の影響を除き、フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む。

⁶ PEL/CEL の影響を除く。



2013 年度上半期全体で、営業収益¹は前年同期と比べて 1.8%の減収となりました。その背景には、長引く低金利環境と融資残高の減少を受けて純利息収入が 2.3%減少したことに加え、手数料収入が 1.1%減少したことがありました。業務効率の継続的な改善を受けて営業費用¹が 1.9%減少したことにより、営業総利益¹の減少幅は 1.7%にとどまりました。そのおかげで営業収益対コスト比率¹は若干改善し、61.6%となりました。リスク費用¹が低水準にとどまったことも貢献し、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、FRB の税引前利益は² 当上半期に 11 億 1800 万ユーロとなり、前年同期と比べて 2.2%の減益でした。

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc) の事業活動の成果として、当四半期に預金残高が高い伸び (2012 年度第 2 四半期末比+9.5%) を果たしましたが、個人客および法人顧客の両セグメントで増加しました。融資残高は、法人および小規模事業者の顧客セグメントで借入需要の減速が目立ち、平均で 3.4%減少しました。当四半期における事業活動には、CIB 事業との協働により、大企業をターゲットとした営業活動の強化が反映されていました。

当四半期の営業収益³は、2012 年度第 2 四半期と比べて+0.4%と僅かに増加し、8 億 1600 万ユーロに上りました。純利息収入は、マージンが底堅く推移したものの融資残高が減少したことから、前年同期比 3.6%減少しました。手数料収入は前年同期比 9.2%の増加でした。これにはオフバランスの貯蓄商品が好調で、とりわけプライベート・バンキング部門が貢献しました。

業務効率の改善努力が奏功し、営業費用³は 2012 年度第 2 四半期と比べて 1.6%減少し、4 億 4100 万ユーロとなりました。

当四半期の営業総利益³は 3 億 7500 万ユーロに上り、前年同期比 2.7%の増益を果たしました。

リスク費用³は、2012 年度第 2 四半期との比較で 28.3%増加し、融資残高の 146bp 相当となりましたが、2013 年度第 1 四半期からは安定推移しました (-0.3%)。

依然として厳しい経済環境のなか、BNL bc は引き続きビジネスモデルの適応に努めました。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、BNL bc は当四半期に 7500 万ユーロの税引前利益を計上しましたが、これは前年同期と比べて 41.4%の減益でした。

2013 年度上半期全体で、営業収益³は前年同期と比べて 0.6%の増収となりました。純利息収入が、特に融資残高縮小の影響で 2.0%減少した一方で、手数料収入の 6.2%増加がこれを打ち消す格好となりました。手数料収入は、とりわけ法人顧客セグメントおよびオフバランス貯蓄商品の好調に沿ったかたちで伸びました。営業費用³は 2012 年度上半期と比べて 1.6%減少し、2.2 ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。これを受けて営業収益対コスト比率³がさらに改善し、当上半期は 53.6%へと低下しました。ただし、リスク費用³が前年同期比で 31.6%増加したことから、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当上半期に 1 億 5900 万ユーロとなり、2012 年度上半期と比べて 42.2%の減益でした。BNL bc は当上半期においても、依然として厳しい経済環境のなかで、引き続き業務効率の改善に努めました。

¹ PEL/CEL の影響を除き、フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む。

² PEL/CEL の影響を除く。

³ イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む。



ベルギー国内リテールバンキング (BRB)

ベルギー国内リテールバンキング (BRB) は、当四半期において業績の好調を維持しました。当四半期の事業活動の結果、預金残高が 2012 年度第 2 四半期末比で 4.0%増加しましたが、とりわけ当座預金および普通預金の高い伸びがこれを牽引しました。融資残高は当四半期に 1.7%¹ 増加し、特に個人客への貸出が伸びたことに加え、中小企業 (SME) への融資が底堅く推移したことが寄与しています。零細企業や SME を支援するために、当該セグメントを対象としたキャンペーンが展開され、10 億ユーロに上る資金が充当されました。

当四半期の営業収益² は 2012 年度第 2 四半期から安定推移し¹、8 億 4400 万ユーロとなりました。純利息収入は長引く低金利環境に沿うかたちで若干減少した一方で、手数料収入は、金融取引の手数料の復調とオフバランスの貯蓄商品の伸びにより増収となりました。

業務効率の改善効果により、営業費用² は 2012 年度第 2 四半期と比べて 0.6%¹ 減少し、6 億 2100 万ユーロとなった結果、営業総利益² の前年同期比 1.6%¹ 増に貢献しました。

当四半期のリスク費用² は、2012 年度第 2 四半期から安定推移し、融資残高の 20bp 相当と、依然として低い水準にとどまりました。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、当四半期の営業外損益の影響が小さかったことも相まって、BRB の税引前利益は 1 億 6100 万ユーロとなり、前年同期と比べて 2.4%の減益でした。

2013 年度上半期全体で、営業収益² は +0.2%と僅かに増収となりました。純利息収入は長引く低金利環境を受けて減少したものの、オフバランス貯蓄商品の好調が手数料を増加させ、これを相殺しました。業務効率の改善効果により、営業費用が 0.5%² 減少し、0.7 ポイントの正のジョーズ効果を生み出したことから、営業収益対コスト比率² は 72.5%へと改善しました。その結果、営業総利益² は 2012 年度上半期と比べて 2.2%増加しました。リスク費用² は当上半期に 17.9%減少し、とりわけ低い水準となりました。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、BRB の当上半期の税引前利益は 3 億 6600 万ユーロに上り、2012 年度上半期と比べて 2.8%の増益となりました。

ルクセンブルク国内リテールバンキング：融資残高は、当四半期に、2012 年度第 2 四半期と比べて 1.4%増加しましたが、住宅ローンの高い伸びがこれを牽引しました。また、法人顧客セグメントからの旺盛な資金流入が特に貢献し、預金残高も確かな伸びを示しました (+6.0%)。当四半期において営業収益は前年同期比で若干増加した一方、営業費用の増加により、営業収益対コスト比率は 1.9 ポイント上昇しました。

個人投資家部門：当四半期において、運用資産残高は、活発な販売およびマーケティング努力のおかげで、2012 年 6 月末現在の水準と比べて 9.9%増加しました。預金残高は当四半期に、新規顧客の順調な増加に加えドイツにおける Hello bank! の発足を受けて、前年同期比 20.5%の急増を果たしました。当四半期の営業収益は、仲介業務および預金の伸びにより、前年同期と比べて増収となりました。営業費用が減少したことから、当四半期の営業総利益は大幅増となりました。

アルバル：連結ベースのリース資産残高は、当四半期に微増となりました (2012 年度第 2 四半期比 +0.4%)。営業収益は、中古車価格の上昇が牽引し、前年同期と比べて急増しました。営業費用が若干減少したことにより、営業総利益は 2012 年度第 2 四半期から大幅に増加しました。

¹ 連結範囲変更による影響を除く。

² ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む。



リーシング・ソリューションズ：当四半期において、リース資産残高は前年同期末比で **7.0%**¹ 減少しましたが、これはノンコア資産を調整する事業適応計画に沿ったものです。ただし、取引の収益性を重視する選択的な方針のおかげで、リース資産残高の減少が当四半期の営業収益に及ぼした影響はより限定的でした。確かなコスト管理が奏功し、当四半期の営業収益対コスト比率は、前年同期から改善しました。

全体では、これら4つのビジネスユニットによる国内市場部門の税引前利益への貢献は、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3分の1** をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、前年同期と比べて **6.9%** 増加し、**2億1600万ユーロ** に上りました。

2013年度上半期全体で、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3分の1** をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、これら4つのビジネスユニットは、総額 **4億3400万ユーロ** で国内市場部門の税引前利益に貢献しました。これは **2012年度上半期** と比べて **3.8%** の増加でした。

*
* *

欧州・地中海沿岸諸国

当四半期において欧州・地中海沿岸諸国部門は、積極的な販売およびマーケティング活動を展開しました。預金残高は前年同期末比で **13.5%**¹ 増加し、しかもほとんどの国で増加が確認されましたが、なかでもトルコでの伸び (**+26.4%**¹) が突出していました。融資残高は **8.9%**¹ 増加し、とりわけトルコでの好調 (**+26.5%**¹) がこれを牽引しました。販売およびマーケティング努力はまた、トルコにおいて **CIB** とインベストメント・ソリューションズの間でクロスセリングが大幅に伸びたことに加え、キャッシュマネジメント業務の商品ラインが拡充されたことに表れています。

当四半期の営業収益は **4億8200万ユーロ** に上り、**2012年度第2四半期** と比べて **11.4%**¹ の増収となりました。その最大の牽引役を果たしたのがトルコでの大幅増収 (**+27.1%**¹) でした。

営業費用は、当四半期に前年同期比 **3.0%**¹ 増加し **3億3000万ユーロ** となりました。その主要因は、トルコで当四半期に **25** の支店開設があり、営業費用が **13.3%**¹ 増加したことです。対して、東欧では、ポーランドおよびウクライナでの業務効率向上の取組みが奏功し、同地域の営業費用は **7.6%**¹ 減少しましたが、トルコの要因がこれを打消しました。

リスク費用は当四半期に **5300万ユーロ** となり、融資残高の **83bp** 相当でした。これは前年同期から **800万ユーロ** の増加でしたが、前四半期からは **1800万ユーロ** の減少でした。以上から、欧州・地中海沿岸諸国部門は当四半期に税引前利益 **2億3700万ユーロ** を収め、前年同期比で大幅増益となりました (**BNPパリバ・エジプトの事業売却によるキャピタルゲイン1億700万ユーロ**² を除いて、前年同期比**+54.5%**¹)。

2013年度上半期全体で、営業収益は、トルコでの快挙 (**+31.6%**¹) を受けて、前年同期比 **13.6%**¹ の増収となりました。営業費用は全体で **3.4%**¹ 増加しました。うち、トルコでの **14.4%**¹ の増加に対し、東欧では、ポーランドおよびウクライナでの業務効率改善策が奏功し、前年同期から減少しました。これを受けて営業収益対コスト比率は、**2012年度上半期** から **6.8ポイント**¹ 低下し、**68.7%** へと改善しました。リスク費用が **5.4%**¹ 減少し、またエジプト部門の売却による **1億700万ユーロ**² のキャピタルゲインのおかげで、当上半期の税引前利益は前年同期と比べて大幅増となり、**3億3300万ユーロ** に上りました。

¹ 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。

² とりわけコーポレート・センターに計上された為替差損-3000万ユーロを含まない。



バンクウエスト

当四半期におけるバンクウエストの好業績は、当座預金および普通預金の確かな伸びにより、預金残高が前年同期末比 **4.4%**¹ 増加したことに表れています。融資残高は、法人顧客および **SME** セグメントへの事業投資が奏功し、企業向け貸出が高い伸び (**+10.1%**¹) を果たしたため、全体では **3.5%**¹ 増加しました。このような業務展開の好調さはまた、次の分野でも表れていました。すなわち、プライベート・バンキング部門の体制強化により、運用資産が **2013年6月末現在で60億米ドル**へと拡大しました (**2012年6月末と比べて+32%**)。また、モバイルバンク・サービスの成長により、利用者は現在 **187,000人**を数えますが、これは **2013年3月末から3割以上の増加**を意味します。

ただし、当四半期の営業収益は **5億5700万ユーロ**となり、**2012年度第2四半期**と比べて **4.6%**¹ の減収となりました。これには、金利低下によるマイナス要因が融資の伸びによるプラス要因を上回ったことや、証券業務で債権売却によるキャピタルゲインが前年同期の水準に及ばなかったことも影響していました。

営業費用は当四半期に **3億4600万ユーロ**となり、前年同期比 **3.0%**¹ 増加しました。法人および小規模事業者向け業務の拡充に加え、プライベート・バンキング業務の体制強化に要した費用が増加要因となりました。

リスク費用は当四半期に極めて低い水準にとどまり、融資残高の **11bp** 相当となりました (**2012年度第2四半期から2000万ユーロの減少**)。

以上から、バンクウエストは当四半期において **2億ユーロ**の税引前利益を収めました。これは **2012年度第2四半期**と比べて **7.9%**¹ の減益となりました。

2013年度上半期全体で、営業収益は、長引く低金利環境の影響を受けて、前年同期と比べて **3.8%**¹ の減収となりました。営業費用は、プライベート・バンキングの組織強化に加え、小規模事業者および法人顧客業務にかかわる事業投資を受けて、**2.7%**¹ 増加しました。その結果、営業収益対コスト比率は **3.9ポイント**¹ 上昇し、**62.0%**となりました。リスク費用が当上半期に激減したため (**-51.0%**¹)、税引前利益は **3億9000万ユーロ**に上り、減益幅は **2012年度上半期**と比べて **5.2%**¹ にとどまりました。

パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンス部門の融資残高は、**2012年度第2四半期末**と比べて **3.3%**¹ 減少し、**861億ユーロ**¹となりました。消費者ローン残高の減少幅は **0.9%**¹ の微減にとどまりましたが、住宅ローン残高は、**バーゼル3** 基準に向けた事業適用計画に沿ったかたちで **6.4%**¹ 減少しました。当四半期中の注目事項のうち、特に次の **2点**が挙げられます。すなわち、パーソナル・ファイナンス部門は、セテレムが提供するリボルビングクレジットの新サービスで、**Vigeo** から「フランスにおける社会的に責任ある企業」として格付けされました (なお、**Vigeo** は企業の社会的責任 (CSR) を評価する独立の格付け機関)。また、中国では、消費者ローンの開発で南京銀行と提携しました。

当四半期の営業収益は、**2012年度第2四半期**と比べて **0.7%**減少し、**12億3500万ユーロ**となりました。住宅ローン残高が減少するとともに、消費者ローンからの営業収益は、フランス国内でマージンや取引金額に関する規制強化の影響を受けました。ただし、ベルギー、中欧、ドイツおよびブラジルでは、営業収益が勢い付きました。

営業費用は **2012年度第2四半期**と比べて **6.4%**減少し、**5億5700万ユーロ**となりました。事業適応計画の効果が発揮されたおかげで、業務提携への投資負担にもかかわらず、費用削減を果たしました。

¹ 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。



当四半期のリスク費用は、3億7800万ユーロで前年同期から安定推移し（2012年度第2四半期から+400万ユーロの増加）、融資残高の174bp相当でした。

以上から、パーソナル・ファイナンス部門の税引前利益は、当四半期に3億1200万ユーロとなり（前年同期比3.0%の増益）、当部門の確かな利益創出能力を証明しました。

2013年度上半期全体で、営業収益は前年同期と比べて2.5%の減収でした。これにはとりわけ、事業適用計画に沿った住宅ローン残高の縮小に加え、消費者ローン業務がフランス国内の規制によるマイナス影響を受けたことが作用していました。ただし、消費者ローンは、ベルギー、ドイツおよび中欧で、営業収益には勢いがありました。営業費用は事業適応計画の効果が発揮されて11.0%減少し、その結果、営業収益対コスト比率は45.8%へと改善しました。リスク費用に関しては、2012年度上半期には一過性の貸倒引当金戻入益が計上された反動で、当上半期には7.7%増加しました。以上から、税引前利益は5億8400万ユーロとなり、減益幅は0.3%の微減にとどまりました。

*
* *

インベストメント・ソリューションズ事業

インベストメント・ソリューションズ事業の事業開発は、中国の生命保険事業でBNPパリバ・カードィフと北京銀行の間で2013年7月上旬に締結された合弁契約により、新たな局面を迎えました。

運用資産残高¹は2013年6月末現在で8690億ユーロに上り、2012年12月末の水準と比べて2.2%の減少でしたが、2012年6月末との比較では横ばいでした。2013年度上半期中の運用パフォーマンス効果（-25億ユーロ）には、金利上昇と期末にかけて株式相場が下落したことが打撃となりました。為替変動の影響は、ユーロ高でマイナス効果（-21億ユーロ）となりました。

2013年度上半期において資金の純流出がおり（-123億ユーロ）、とりわけ資産運用部門で資金がマネーマーケットファンドへと流れました。ただし、富裕層向け資産運用部門では高水準の資金流入がありました。特にアジアおよび国内市場での資金流入が旺盛で、また、フランス、イタリア、およびアジアで好業績を上げた保険事業でも資金流入がありました。

2013年6月末現在、インベストメント・ソリューションズ事業の運用資産残高¹の内訳は以下のとおりです：資産運用部門は3750億ユーロ；富裕層向け資産運用部門は2720億ユーロ；保険部門は1730億ユーロ；個人投資家部門は370億ユーロ；不動産管理部門は130億ユーロ。

インベストメント・ソリューションズ事業の営業収益は、当四半期に15億9800万ユーロに上り、2012年度第2四半期と比べて2.0%の増収となりました。保険部門の営業収益は、アジアおよび中南米での保障保険の高い伸びを享受し、前年同期比7.4%増加しました。富裕層向けおよび資産運用部門の営業収益は1.1%の減少でしたが、これには富裕層向け部門の運用資産残高が順調に伸びた一方で、資産運用部門の期中平均残高の減少がマイナス要因として作用しました。証券管理部門の営業収益は、長引く低金利環境にもかかわらず、取引件数の増加で1.3%の増収となりました。

インベストメント・ソリューションズ事業の営業費用は当四半期に10億6400万ユーロとなり、2012年度第2四半期と比べて0.5%減少しました。これを部門別にみると次のようになります。保険部門では、事業の成長に伴い営業費用は5.8%増加しました。富裕層向けおよび資産運用部門では、特に資産運用部門で事業適応計画の効果により、営業費用が2.8%減少しました。証券管理部門では、業務効率改善策が功を奏し営業費用は1.3%減少しました。これらの部門で全般的に、営業収益対コスト比率の改善がみられました。

¹ 外部顧客のためのアドバイザー契約資産、分配金、および個人投資家部門を含む。



インベストメント・ソリューションズ事業の営業総利益は、当四半期に 5 億 3400 万ユーロに上り、前年同期と比べて 7.4%増加しました。

以上より、国内市場部門からプライベート・バンキング業務の税引前利益の 3 分の 1 を配分された後、インベストメント・ソリューションズ事業の純利益は 5 億 6400 万ユーロに上り、2012 年度第 2 四半期と比べて 6.4%の堅実な増益を果たしました。

2013 年度上半期全体で、インベストメント・ソリューションズ事業の営業収益は、前年同期と比べて 2.4%の増収となりました。これを牽引したのは、保険部門における営業収益の 10.3%の伸びでした。一方、富裕層向けおよび資産運用部門においては、資産運用部門の預かり資産の期中平均残高減少に伴い、営業収益は 0.8%減少しました。また、証券管理部門の営業収益は 1.7%の減少でした。営業費用は、2012 年度上半期と比べて +0.1%と僅かな増加にとどまりました。部門別では、保険部門において、事業の成長に伴い営業費用は 7.8%増加しました。これを相殺するかたちで、富裕層向けおよび資産運用部門においては、事業適応計画の効果が資産運用部門で発揮され、営業費用は 2.7%減少しました。証券管理部門においては、業務効率改善効果で営業費用は 1.0%減少しました。これを受けて、営業収益対コスト比率は 1.5 ポイント改善し、67.0%へと低下しました。保険部門における関連会社の増益効果を楽しみ、当上半期の税引前利益は 11 億 500 万ユーロに上り、2012 年度上半期と比べて 9.4%の増益を果たしました。

*
* *

コーポレートバンキング・投資銀行 (CIB) 事業

コーポレートバンキング・投資銀行 (CIB) 事業の営業収益は、当四半期に 21 億 400 万ユーロとなり、2012 年度第 2 四半期と比べて 2.4%¹の減収でした。

アドバイザーおよびキャピタル・マーケット業務の営業収益は、当四半期終盤にかけて（米連邦準備理事会 (FRB) 議長による発言などをきっかけに）金融市場で再び緊張が高まったものの、顧客業務の需要が伸びたおかげで、12 億 5700 万ユーロに上り、前年同期と比べて 4.1%の増収となりました。

フィクスト・インカム業務の営業収益は 8 億 200 万ユーロで、前年同期と比べて 4.3%の減収でした。金利業務は、第 2 四半期末に金利が激しく変動したことによる影響を受けた一方で、クレジット業務および為替業務は好業績を収めました。債券発行業務は好調を維持し、当ビジネスユニットの強固な地位が確認されました。すなわち、全ての国際債券発行で第 8 位にランクインするとともに、ユーロ建て全社債発行で第 1 位を堅持しました。

株式およびアドバイザー業務の営業収益は、当四半期に 4 億 5500 万ユーロとなり、前年同期と比べて +23.3%と大幅に回復しました。これにはとりわけ、取引高が拡大したことと、特に欧州およびアジアで仕組商品が好調であったことが貢献しました。当ビジネスユニットはまた、エクイティリンク債の発行でリーダー的地位を確認しました。すなわち、欧州におけるエクイティリンク債発行において、取引件数ベースでブックランナー第 1 位、取引高ベースで第 4 位にそれぞれランクインしました。

コーポレートバンキング業務の営業収益は、当四半期において引き続き 2012 年度事業適応計画の影響を受けており、融資債権残高の減少（2012 年 6 月末比で -12.6%）に沿うかたちで、前年同期と比べて 10.7%¹の減収となり、8 億 4700 万ユーロでした。手数料収入は大幅増となりました（2012 年度第 2 四半期と比べて +22.1%）。当業務部門は、欧州では需要低迷で苦戦しましたが、アジアでは営業収益を伸ばし、さらに米州では回復が顕著でした。

¹ 2012 年度第 2 四半期に実施した資産処分起因する、純額で 7500 万ユーロの押し上げ効果を除く。



当業務部門は引き続き、堅調な業績を収めました。欧州におけるシンジケートローンでリードブックランナーの地位を獲得し、各主要な市場セグメントで上位に入りました。当四半期においても「オリジネート・トゥ・ディストリビュート」アプローチに基づく取引を開発し、この分野で数多くの重要な取引を実行しました。さらに、コーポレートバンキング部門は、成長分野として積極的に取り組んでいるキャッシュマネジメント業務で、新たな汎欧州マンドートを複数獲得しました。

CIB の営業費用は当四半期に 14 億 500 万ユーロとなり、2012 年度第 2 四半期と比べて全般的に 0.1%減少しました。事業開発に関わる投資（特にアジア、北米、およびキャッシュマネジメント業務において）が負担となった一方で、Simple and Efficient 計画の効果がこれを相殺するかたちとなりました。

CIB のリスク費用は、当四半期に 2 億 600 万ユーロとなり、2012 年度第 2 四半期の 1900 万ユーロという低水準から上昇しました。ただし、前年同期には多額の貸倒引当金戻入益が計上されたため、リスク費用は少額でした。また、当四半期のリスク費用には、アドバイザリーおよびキャピタル・マーケット業務で計上された 6500 万ユーロの一時項目も影響していました。コーポレートバンキング業務のリスク費用は穏やかな水準にとどまり、融資残高の 48bp 相当でした。

以上から、当四半期において CIB の税引前利益は 4 億 9700 万ユーロとなり、2012 年度第 2 四半期と比べて 38.7%の減益でした。なお、前年同期の税引前利益には、2012 年度事業適応計画の一環として売却した融資債権からのプラス影響がありました。

2013 年度上半期全体で、CIB の営業収益は、前年同期と比べて 14.7%減少し、45 億 6500 万ユーロとなりました。アドバイザリーおよびキャピタル・マーケット業務では営業収益が 15.0%減少しましたが、これは、フィクストインカム業務同様、2013 年前半に市場で繰り返しの緊張が高まったことによる影響を受けたものです。コーポレートバンキング業務の営業収益は、事業適応計画に基づく融資残高の縮小に沿うかたちで、14.2%減少しました。営業費用は 2012 年度上半期と比べて 9.5%減少しました。これは、特にアジア、北米、およびキャッシュマネジメント業務で事業開発に関わる投資が負担となったものの、Simple and Efficient 計画の効果がそれを上回って発揮されたことによるものです。その結果、CIB の営業収益対コスト比率は、当上半期に 65.6%になりました。リスク費用は 2 億 8600 万ユーロで、2012 年度上半期の 9700 万ユーロと比べて上昇しました。ただし、前年同期のリスク費用は、多額の貸倒引当金戻入益が計上された影響で、極めて低い水準でした。以上から、当上半期の税引前利益は 13 億 300 万ユーロとなり、2012 年度上半期と比べて 33.8%の減益でした。

*
* *

コーポレート・センター

コーポレート・センターの当四半期の営業収益は 3900 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 2 億 1800 万ユーロでした。当四半期の営業収益には、自己負債の再評価に関わる修正額および「債務価値調整（Debit Value Adjustment : DVA）」による影響が-6800 万ユーロであったのに対し（前年同期は+2 億 8600 万ユーロの影響）、ロイヤルパーク・インベストメントの資産売却に関わる 2 億 1800 万ユーロのプラス影響がありました。中央銀行預け金に関わる負担は、当四半期に投資先企業からの受取配当金により、一部相殺されました。

営業費用は当四半期に 1 億 7200 万ユーロとなり、対して前年同期は 1 億 5200 万ユーロでした。当四半期の営業費用には、Simple & Efficient 計画に関わる変革のための費用が含まれています。

当四半期のリスク費用は大幅に増加し、1800 万ユーロに上りました（2012 年度第 2 四半期は 200 万ユーロ）。

営業外損益は、当四半期に 2800 万ユーロの損失となりましたが、これには特に BNP パリバ・エジプトの売却に関わる為替差損 -3000 万ユーロが影響していました。なお、2012 年度第 2 四半期の営業外損益は -1700 万ユーロでしたが、これにはレーザー・ネーデルランドに関わるのれんの減損 -2700 万ユーロが特に影響していました。



以上から、コーポレート・センターの税引前損益は当四半期に 1 億 4300 万ユーロの損失となり、対して前年同期の税引前利益は 5100 万ユーロの利益でした。

2013 年度上半期全体で、コーポレート・センターの営業収益は -2400 万ユーロとなり、対して前年同期は -6 億 5300 万ユーロでした。当上半期の営業収益には、自己負債の再評価に関わる修正額および「債務価値調整」による影響が +8100 万ユーロ（前年同期は -5 億 5700 万ユーロの影響）、ロイヤルパーク・インベストメントの資産処分による売却益が 2 億 1800 万ユーロ、および中央銀行預け金の影響が含まれていました。2012 年度上半期の営業収益にはまた、カーディフ・ヴィタおよびフォルティスの銀行勘定に関わる公正価値調整額の償却分 +3 億 2500 万ユーロに加え、ソブリン債の売却損 -2 億 3200 万ユーロが含まれていました。

コーポレート・センターの営業費用は当上半期に 4 億 4500 万ユーロとなり、前年同期の 3 億 3200 万ユーロからの増加でした。当上半期の営業費用には、Simple & Efficient 計画に関わる変革費用 2 億 2900 万ユーロが含まれていました。対して、前年同期の営業費用には、事業再編費用 1 億 6900 万ユーロが含まれていました。

リスク費用に関しては、当上半期は純額で +2200 万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました。対して、前年同期には純額で 2700 万ユーロの貸倒引当金繰入額が計上されましたが、これにはギリシャ国債の債務交換に関わる影響額の残部が含まれていました。

当上半期の営業外損益は 8400 万ユーロの損失となりました。対して、前年同期の営業外損益は 17 億 3500 万ユーロの利益でしたが、これにはクレピエールに対する 28.7% 持分を売却したことによるキャピタルゲイン 17 億 9000 万ユーロが特に影響していました。

税引前損益は当上半期に -5 億 3100 万ユーロの損失となりましたが、対して、前年同期は 7 億 2300 万ユーロの利益でした。

*
* *

財務構造

グループは盤石なバランスシートを有しています。

2013 年 6 月末現在、バーゼル 3 基準全面適用のエクイティ Tier 1 比率¹は 10.4% となり、2013 年 3 月末と比べて 40bp の改善でした。これには次の要素が考慮されています：従来の² 配当性向を踏襲すると仮定した第 2 四半期の純利益による貢献 (+20bp)、およびリスク加重資産の削減による効果 (+20bp)。これは、新たな規制環境における、グループの非常に高い自己資本比率を明らかにするものです。

バーゼル 3 基準全面適用のレバレッジレシオ¹は、エクイティ Tier 1 のみに基づき算定すると、2013 年 6 月末現在で 3.4% でした。これは、2018 年 1 月 1 日以降、規則上要求される、Tier 1 資本³に基づき算定される 3% を既に上回っていることを意味します。

グループの即時利用可能な余剰資金は当四半期末現在で 2360 億ユーロに上りました（対して、2013 年 3 月末現在は 2310 億ユーロ）。これは短期ホールセール資金の 145% に相当し、また、1 年以上、資金に余裕ができることを意味します。

¹ 経過措置なしで全ての CRD4（資本要求指令 4）規則を BNP パリバが適用した結果であり、CRD4 の指令内容は一部解釈に依存するところがある。

² 配当性向は 2012 年度実績の 29.7% を維持するとの仮定に基づく。

³ Tier 1 資本に基づき算定されたグループのレバレッジレシオは 3.8%。



*
* *

グループのアクションプラン

グループは現在、2014-2016 年度事業開発計画を策定中であり、2014 年初頭には総合的なプレゼンテーションとして発表する予定です。

同計画の初期段階を構成する Simple & Efficient は、グループ組織の機能のしかたを簡素化するとともに業務効率を向上させるための意欲的な取組みですが、2 つの特定分野の事業開発計画（アジアパシフィック事業開発計画、および Hello bank!）とともに、既に進行中です。

2014-2016 年度事業開発計画に向けた準備は順調に進んでおり、当四半期には新たに 2 つの分野（資産運用事業、およびドイツ）に関する事業開発計画が発表されました。

資産運用事業：グループの戦略的事業

資産運用は、次の 3 つの根本的理由から、グループにとって戦略的な事業です：1) 機関投資家の顧客にとって極めて重要な事業であること、2) グループの顧客の資産運用を担っていること、3) 資産運用事業は株主資本利益率に重要な貢献を果たすこと。

グループの資産運用部門は、40 ヶ国にわたり 3,200 名の従業員を擁しており、グローバルリーチを確立しています。同部門の運用資産残高は、2013 年 6 月末現在で 3750 億ユーロに上りました。

当ビジネスユニットは、機関投資家セグメントでは既に主要プレーヤーの地位を確立しており、欧州では 7 位にランクインしています。当ビジネスユニットの資産運用能力は、欧州株やアジアの債券など様々な領域において、主力コンサルティング会社や業界紙によって高い評価を受けています。

当ビジネスユニットは、個人投資家セグメントおよびプライベート・バンキング分野において強固な地位を確立しています。販売活動は、4 つの国内市場にわたるネットワークを活用し（1500 万人の強固な顧客基盤を背景に商品を提供）、また、大手グローバル販売業者への太いパイプを有しています。

さらに、資産運用部門は、エマージング市場において強固な組織を築いており、17 の国で拠点を展開しながら 500 億ユーロ相当の資産を配分しています。また、韓国の新韓や中国の HFT をはじめとする、現地企業との提携でプレゼンスを強化しています。

当ビジネスユニットの事業開発において、以下の 3 つの優先分野があります。

機関投資家の顧客層に関しては、グループの最も得意な分野について国際的な主力コンサルティング会社による評価を高めることに加え、新たな運用マニフェストを獲得して運用資産を拡大させることを目標とします。グループは、ローンや CLO（ローン担保証券）をはじめとする新たな分野でノウハウを開発し、欧州株の商品ラインの開発を加速化させ、保険会社や年金基金のニーズに沿ったソリューションを導入し、さらに、これらの厳しい顧客の要望に応えるために、可能な限り最高のサービス水準を確保するための投資を選択的に進めます。

アジアパシフィックおよびエマージング市場においては、高成長が見込める市場で運用資産の拡大を目指すとともに、グローバル規模でクロスセリングを高めていきます。また、グループは、重要な市場（中国、ブラジル、韓国、およびインドネシア）でその地位を確固たるものにし、個人客へのアクセスを得るために地域・現地市場でのノウハウを高めるとともに、現地企業とのパートナーシップを構築します。

リテールバンキングおよびプライベート・バンキングの顧客層に関しては、欧州大陸で上位 3 位に入る規模の販売プラットフォームを構築することが目標です。これに向けて、銀行または販売ネットワークとのパー



トナーシップを築き、個人客へのソリューション提供を拡充し、さらに、ビジネスプロセスを大規模化します。

グループの目標は、この高収益のコア事業で、2016年度までに営業収益を10%増加させるとともに、運用資産を拡大させることです。そこで、グループは、機関投資家セグメント、アジアパシフィック、およびエマージング市場を柱とする付加価値の高いセグメントで、2016年度までに、400億ユーロの純資金流入を目標に、資金流入を一気に増やす計画を立てています。これに向けて、グループは選択的に事業投資を行いますが、特に機関投資家セグメントに注目しています。

ドイツ：欧州における事業展開のターゲット市場

ドイツでは、12の事業を展開し約3,500名の従業員を擁してあらゆる顧客セグメントに対応しており、既存の組織で将来の発展を築くための強い立場にあります。

リテールバンキング業務において、グループは、以下の特殊な分野で強力なリテールフランチャイズを有しています：コートアル・コンソールは、オンライン投資アドバイスサービスにおけるリーダー的存在です；パーソナル・ファイナンスは、店頭窓口の消費者ローンで第3位にランクインしています；リーシング・ソリューションズは、農機具リースで第1位に上るとともに、ベンダープログラムで主要な地位にあります。コーポレートバンキング・投資銀行業務では、BNPパリバは、大企業および機関投資家の顧客の間で主要な地位にあり、また、6つの地域ビジネスセンターからなるネットワークを有しています。かかるネットワークは、グループが開発した“**One bank for Corporates**”アプローチの一部を構成しています。さらに、インベストメント・ソリューションズは業界で主要な地位を有しています：証券管理部門はカスタディ業務で第1位の銀行となっており、不動産管理部門は商業不動産の取引（企業間取引）で第1位に上り、さらに、カーディフは信用保証において主要プレーヤーとなっています。

ドイツでの事業開発計画は、全てのセグメントにわたりクロスセリングを醸成する総合的な成長計画です。

グループの目標は、**Hello bank!**を通じて個人預金を大幅に増やすとともに、2017年度までにおよそ110万人の顧客と個人預金市場の1%シェアを獲得するために、コートアル・コンソールをネット銀行として発展させることです。

グループは同時に、2018年度までに大企業および中堅企業の市場セグメントで上位5位以内に入るべく、融資残高を拡大させ、当該セグメントにおける地位を強化します。グループのグローバルリーチおよび多様な分野でのノウハウを活用することにより、大企業との関係を深めるとともに、輸出セクターの中堅企業にも顧客層を広げていきます。また、リースおよびファクタリングでも顧客基盤の拡大に努めます。リースでは、2016年度までに30億ユーロのリース資産残高を目標としており、これは2012年度の水準と比べて+50%の増加を意味します。ファクタリングでは、2016年度までに6%の市場シェアを目指しており、これは2012年度のおよそ2倍に当たります。

特殊な業務分野で強固な地位を確立するためのペースの加速化も計画されています。不動産管理業務および証券管理業務におけるリーダー的地位をさらに強化します（コメルツ銀行のカスタディ部門買収に関わる2013年7月25日の発表を参照）。BNPパリバ・カーディフの市場地位を高めるために多様な販売チャネルを開発し、また、特にリテールおよび自動車分野でパーソナル・ファイナンスとの連携を発展させます。

グループは2016年度までに、ドイツでの営業収益を15億ユーロに伸ばすことを目標として掲げています。これは約8%の年平均成長率を意味します。同時に、ドイツ国外で事業を展開するドイツの大企業との取引を通じて、営業収益の増大を図ります¹。

これに向けて、グループはドイツでの組織の拡充を予定しています。すなわち、今後3年以内にスタッフを500人以上増員するとともに、例えば『**BNP Paribas Houses (BNPパリバ・ハウス)**』を発足させて、業

¹ 当該営業収益は、前述の15億ユーロ目標に含まれない。



務効率と存在感を高めていきます。また、事業および顧客基盤の成長に伴い、グループのドイツ市場へのコミットメントが著しく高まると予想しています。

これら一連の努力の目的は、欧州でのグループの成長にとってのターゲット市場において、長期的なフランチャイズを構築することです。

*
* *

以上の決算内容について、ジャン＝ローラン・ボナフェ最高経営責任者は、次のように述べています。

「BNP パリバ・グループは、当四半期に 18 億ユーロの純利益を上げました。

当四半期の業績は、欧州における底堅い営業収益や、高成長市場における活発な営業努力、また **Simple & Efficient** の初期効果が発揮され業務効率の改善が進んだこと、さらには、厳しい経済環境にもかかわらずリスク費用が穏やかな水準に抑えられたことによって達成されました。

BNP パリバは、極めて高い自己資本比率と潤沢な余剰資金に支えられた、盤石なバランスシートを有しています。

2014-2016 年度事業開発計画の準備を順調に進めるとともに、BNP パリバ・グループは、今後も世界各国の顧客へのサービス提供に全力を尽くします。」



連結損益計算書

	2Q13	2Q12	2Q13 / 2Q12	1Q13	2Q13/ 1Q13	1H13	1H12	1H13 / 1H12
(単位：百万ユーロ)								
営業収益	9,917	10,098	-1.8%	10,055	-1.4%	19,972	19,984	-0.1%
営業費用および減価償却費	-6,291	-6,335	-0.7%	-6,514	-3.4%	-12,805	-13,180	-2.8%
営業総利益	3,626	3,763	-3.6%	3,541	+2.4%	7,167	6,804	+5.3%
リスク費用	-1,109	-853	+30.0%	-978	+13.4%	-2,087	-1,798	+16.1%
営業利益	2,517	2,910	-13.5%	2,563	-1.8%	5,080	5,006	+1.5%
関連会社損益	71	119	-40.3%	35	n.s.	106	273	-61.2%
その他営業外項目	112	-42	n.s.	17	n.s.	129	1,648	-92.2%
営業外損益	183	77	n.s.	52	n.s.	235	1,921	-87.8%
税引前利益	2,700	2,987	-9.6%	2,615	+3.3%	5,315	6,927	-23.3%
法人税	-771	-915	-15.7%	-821	-6.1%	-1,592	-1,843	-13.6%
少数株主帰属純利益	-166	-222	-25.2%	-210	-21.0%	-376	-365	+3.0%
株主帰属純利益	1,763	1,850	-4.7%	1,584	+11.3%	3,347	4,719	-29.1%
営業収益対コスト比率	63.4%	62.7%	+0.7 pt	64.8%	-1.4 pt	64.1%	66.0%	-1.9 pt

BNP パリバの 2013 年度第 2 四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリース、およびこれに添付したプレゼンテーション資料に含まれています。

法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com> の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典 L.451-1-2 条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第 222-1 条以降の規定に従い、BNP パリバが公表しています。



2013 年度第 2 四半期 — コア事業部門別業績

	リテール バンキング 事業	インベストメ ント・ソリュー ションズ 事業	コーポレー トバンキング・ 投資銀行 事業	事業部門 合計	その他業務	グループ合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	6,176	1,598	2,104	9,878	39	9,917
対前年同期比	+1.5%	+2.0%	-5.7%	-0.0%	-82.1%	-1.8%
対前四半期比	+1.3%	+2.2%	-14.5%	-2.4%	n.s.	-1.4%
営業費用および減価償却費	-3,650	-1,064	-1,405	-6,119	-172	-6,291
対前年同期比	-1.5%	-0.5%	-0.1%	-1.0%	+13.2%	-0.7%
対前四半期比	+1.5%	+0.9%	-11.6%	-2.0%	-37.0%	-3.4%
営業総利益	2,526	534	699	3,759	-133	3,626
対前年同期比	+6.3%	+7.4%	-15.1%	+1.7%	n.s.	-3.6%
対前四半期比	+1.2%	+4.9%	-19.7%	-3.0%	-60.4%	+2.4%
リスク費用	-907	-14	-206	-1,127	18	-1,109
対前年同期比	+8.9%	n.s.	n.s.	+31.8%	n.s.	+30.0%
対前四半期比	+1.3%	+100.0%	n.s.	+14.8%	n.s.	+13.4%
営業利益	1,619	520	493	2,632	-115	2,517
対前年同期比	+4.9%	+5.3%	-38.7%	-7.4%	n.s.	-13.5%
対前四半期比	+1.1%	+3.6%	-37.7%	-9.1%	-65.4%	-1.8%
関連会社損益	54	36	3	93	-22	71
その他営業外項目	109	8	1	118	-6	112
税引前利益	1,782	564	497	2,843	-143	2,700
対前年同期比	+11.7%	+6.4%	-38.7%	-3.2%	n.s.	-9.6%
対前四半期比	+7.6%	+4.3%	-38.3%	-5.3%	-63.1%	+3.3%

	リテール バンキング 事業	インベストメ ント・ソリュー ションズ 事業	コーポレー トバンキング・ 投資銀行 事業	事業部門 合計	その他業務	グループ合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	6,176	1,598	2,104	9,878	39	9,917
前年同期	6,084	1,566	2,230	9,880	218	10,098
前四半期	6,094	1,563	2,461	10,118	-63	10,055
営業費用および減価償却費	-3,650	-1,064	-1,405	-6,119	-172	-6,291
前年同期	-3,707	-1,069	-1,407	-6,183	-152	-6,335
前四半期	-3,597	-1,054	-1,590	-6,241	-273	-6,514
営業総利益	2,526	534	699	3,759	-133	3,626
前年同期	2,377	497	823	3,697	66	3,763
前四半期	2,497	509	871	3,877	-336	3,541
リスク費用	-907	-14	-206	-1,127	18	-1,109
前年同期	-833	-3	-19	-855	2	-853
前四半期	-895	-7	-80	-982	4	-978
営業利益	1,619	520	493	2,632	-115	2,517
前年同期	1,544	494	804	2,842	68	2,910
前四半期	1,602	502	791	2,895	-332	2,563
関連会社損益	54	36	3	93	-22	71
前年同期	47	35	6	88	31	119
前四半期	50	35	15	100	-65	35
その他営業外項目	109	8	1	118	-6	112
前年同期	4	1	1	6	-48	-42
前四半期	4	4	0	8	9	17
税引前利益	1,782	564	497	2,843	-143	2,700
前年同期	1,595	530	811	2,936	51	2,987
前四半期	1,656	541	806	3,003	-388	2,615
法人税						-771
少数株主帰属純利益						-166
株主帰属純利益						1,763



2013 年度上半期 — コア事業部門別業績

		リテール バンキング 事業	インベストメ ント・ソリュー ションズ 事業	コーポレート バンキング・ 投資銀行 事業	事業部門 合計	その他業務	グループ合計
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		12,270	3,161	4,565	19,996	-24	19,972
	対前年同期比	+0.6%	+2.4%	-14.7%	-3.1%	-96.3%	-0.1%
営業費用および減価償却費		-7,247	-2,118	-2,995	-12,360	-445	-12,805
	対前年同期比	-2.4%	+0.1%	-9.5%	-3.8%	+34.0%	-2.8%
営業総利益		5,023	1,043	1,570	7,636	-469	7,167
	対前年同期比	+5.2%	+7.3%	-23.2%	-2.0%	-52.4%	+5.3%
リスク費用		-1,802	-21	-286	-2,109	22	-2,087
	対前年同期比	+8.6%	+50.0%	n.s.	+19.1%	n.s.	+16.1%
営業利益		3,221	1,022	1,284	5,527	-447	5,080
	対前年同期比	+3.4%	+6.7%	-34.0%	-8.2%	-55.8%	+1.5%
関連会社損益		104	71	18	193	-87	106
その他営業外項目		113	12	1	126	3	129
税引前利益		3,438	1,105	1,303	5,846	-531	5,315
	対前年同期比	+6.6%	+9.4%	-33.8%	-5.8%	n.s.	-23.3%
法人税							-1,592
少数株主帰属純利益							-376
株主帰属純利益							3,347



連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
グループ事業						
営業収益	9,917	10,055	9,395	9,693	10,098	9,886
営業費用および減価償却費	-6,291	-6,514	-6,801	-6,562	-6,335	-6,845
営業総利益	3,626	3,541	2,594	3,131	3,763	3,041
リスク費用	-1,109	-978	-1,199	-944	-853	-945
営業利益	2,517	2,563	1,395	2,187	2,910	2,096
関連会社損益	71	35	128	88	119	154
その他営業外項目	112	17	-377	31	-42	1,690
税引前利益	2,700	2,615	1,146	2,306	2,987	3,940
法人税	-771	-821	-481	-737	-915	-928
少数株主帰属純利益	-166	-210	-146	-243	-222	-143
株主帰属純利益	1,763	1,584	519	1,326	1,850	2,869
営業収益対コスト比率	63.4%	64.8%	72.4%	67.7%	62.7%	69.2%



(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
リテールバンキング (フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む) * PEL/CELの影響を除く						
営業収益	6,247	6,200	6,154	6,212	6,246	6,248
営業費用および減価償却費	-3,710	-3,653	-3,865	-3,801	-3,763	-3,772
営業総利益	2,537	2,547	2,289	2,411	2,483	2,476
リスク費用	-908	-897	-1,024	-822	-832	-827
営業利益	1,629	1,650	1,265	1,589	1,651	1,649
営業外損益	163	54	103	76	51	60
税引前利益	1,792	1,704	1,368	1,665	1,702	1,709
インベストメント・ソリューションズ帰属利益	-55	-57	-51	-48	-53	-56
リテールバンキング税引前利益	1,737	1,647	1,317	1,617	1,649	1,653
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	33.2	33.1	33.7	33.7	33.7	34.0
リテールバンキング (フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	6,176	6,094	6,160	6,162	6,084	6,115
営業費用および減価償却費	-3,650	-3,597	-3,807	-3,746	-3,707	-3,718
営業総利益	2,526	2,497	2,353	2,416	2,377	2,397
リスク費用	-907	-895	-1,025	-820	-833	-827
営業利益	1,619	1,602	1,328	1,596	1,544	1,570
営業外損益	163	54	102	76	51	60
税引前利益	1,782	1,656	1,430	1,672	1,595	1,630
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	33.2	33.1	33.7	33.7	33.7	34.0
国内市場 (フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む) * PEL/CELの影響を除く						
営業収益	3,973	3,989	3,845	3,901	3,961	4,023
営業費用および減価償却費	-2,477	-2,433	-2,593	-2,532	-2,494	-2,468
営業総利益	1,496	1,556	1,252	1,369	1,467	1,555
リスク費用	-465	-423	-470	-358	-381	-364
営業利益	1,031	1,133	782	1,011	1,086	1,191
関連会社損益	14	12	8	11	10	11
その他営業外損益	-2	1	-5	1	0	3
税引前利益	1,043	1,146	785	1,023	1,096	1,205
インベストメント・ソリューションズ帰属利益	-55	-57	-51	-48	-53	-56
国内市場税引前利益	988	1,089	734	975	1,043	1,149
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	20.5	20.6	21.2	21.2	21.3	21.5
国内市場 (フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	3,902	3,883	3,851	3,851	3,799	3,890
営業費用および減価償却費	-2,417	-2,377	-2,535	-2,477	-2,438	-2,414
営業総利益	1,485	1,506	1,316	1,374	1,361	1,476
リスク費用	-464	-421	-471	-356	-382	-364
営業利益	1,021	1,085	845	1,018	979	1,112
関連会社損益	14	12	7	11	10	11
その他営業外損益	-2	1	-5	1	0	3
税引前利益	1,033	1,098	847	1,030	989	1,126
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	20.5	20.6	21.2	21.2	21.3	21.5

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	1,787	1,785	1,757	1,767	1,716	1,790
うち受取利息純額	1,087	1,085	1,065	1,063	1,020	1,071
うち手数料	700	700	692	704	696	719
営業費用および減価償却費	-1,087	-1,081	-1,170	-1,158	-1,108	-1,101
営業総利益	700	704	587	609	608	689
リスク費用	-88	-80	-80	-66	-85	-84
営業利益	612	624	507	543	523	605
営業外損益	1	2	2	1	1	0
税引前利益	613	626	509	544	524	605
インベストメント・ソリューションズ帰属利益	-32	-35	-29	-29	-30	-33
フランス国内リテールバンキング税引前利益	581	591	480	515	494	572
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	7.5	7.5	7.7	7.8	7.8	7.9
(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む) * PEL/CELの影響を除く						
営業収益	1,742	1,776	1,644	1,712	1,770	1,813
うち受取利息純額	1,042	1,076	952	1,008	1,074	1,094
うち手数料	700	700	692	704	696	719
営業費用および減価償却費	-1,087	-1,081	-1,170	-1,158	-1,108	-1,101
営業総利益	655	695	474	554	662	712
リスク費用	-88	-80	-80	-66	-85	-84
営業利益	567	615	394	488	577	628
営業外損益	1	2	2	1	1	0
税引前利益	568	617	396	489	578	628
インベストメント・ソリューションズ帰属利益	-32	-35	-29	-29	-30	-33
フランス国内リテールバンキング税引前利益	536	582	367	460	548	595
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	7.5	7.5	7.7	7.8	7.8	7.9
(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	1,725	1,721	1,700	1,709	1,658	1,730
営業費用および減価償却費	-1,057	-1,053	-1,141	-1,130	-1,079	-1,074
営業総利益	668	668	559	579	579	656
リスク費用	-88	-79	-80	-65	-86	-84
営業利益	580	589	479	514	493	572
営業外損益	1	2	1	1	1	0
税引前利益	581	591	480	515	494	572
配賦資本 (十億ユーロ、年初末)	7.5	7.5	7.7	7.8	7.8	7.9

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
BNL バンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	816	823	834	810	813	816
営業費用および減価償却費	-441	-438	-485	-440	-448	-445
営業総利益	375	385	349	370	365	371
リスク費用	-295	-296	-283	-229	-230	-219
営業利益	80	89	66	141	135	152
営業外損益	0	0	1	0	0	0
税引前利益	80	89	67	141	135	152
インベストメント・ソリューションズ帰属利益	-5	-5	-3	-3	-7	-5
BNL bc 税引前利益	75	84	64	138	128	147
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	6.4	6.4	6.4	6.4	6.3	6.4
BNL バンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	804	811	824	800	801	805
営業費用および減価償却費	-434	-431	-478	-433	-443	-439
営業総利益	370	380	346	367	358	366
リスク費用	-295	-296	-283	-229	-230	-219
営業利益	75	84	63	138	128	147
営業外損益	0	0	1	0	0	0
税引前利益	75	84	64	138	128	147
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	6.4	6.4	6.4	6.4	6.3	6.4
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	844	838	817	833	837	841
営業費用および減価償却費	-621	-598	-613	-612	-621	-604
営業総利益	223	240	204	221	216	237
リスク費用	-43	-21	-51	-28	-41	-37
営業利益	180	219	153	193	175	200
関連会社損益	1	1	4	4	4	5
その他営業外損益	-3	1	-5	1	2	3
税引前利益	178	221	152	198	181	208
インベストメント・ソリューションズ帰属利益	-17	-16	-18	-15	-16	-17
ベルギー国内リテールバンキング税引前利益	161	205	134	183	165	191
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.5	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	804	802	780	798	801	804
営業費用および減価償却費	-599	-579	-593	-593	-601	-584
営業総利益	205	223	187	205	200	220
リスク費用	-42	-20	-52	-27	-41	-37
営業利益	163	203	135	178	159	183
関連会社損益	1	1	4	4	4	5
その他営業外損益	-3	1	-5	1	2	3
税引前利益	161	205	134	183	165	191
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.5	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
パーソナル・ファイナンス						
営業収益	1,235	1,178	1,267	1,240	1,244	1,231
営業費用および減価償却費	-557	-547	-571	-589	-595	-645
営業総利益	678	631	696	651	649	586
リスク費用	-378	-377	-432	-364	-374	-327
営業利益	300	254	264	287	275	259
関連会社損益	12	17	18	21	24	24
その他営業外損益	0	1	67	24	4	0
税引前利益	312	272	349	332	303	283
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0	5.1
欧州・地中海沿岸諸国						
営業収益	482	474	481	454	448	413
営業費用および減価償却費	-330	-327	-345	-323	-333	-318
営業総利益	152	147	136	131	115	95
リスク費用	-53	-71	-89	-66	-45	-90
営業利益	99	76	47	65	70	5
関連会社損益	28	21	17	15	13	20
その他営業外損益	110	-1	1	1	-1	1
税引前利益	237	96	65	81	82	26
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3
バンクウエスト						
営業収益	557	559	561	617	593	581
営業費用および減価償却費	-346	-346	-356	-357	-341	-341
営業総利益	211	213	205	260	252	240
リスク費用	-12	-26	-33	-34	-32	-46
営業利益	199	187	172	226	220	194
営業外損益	1	3	-3	3	1	1
税引前利益	200	190	169	229	221	195
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0



(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
インベストメント・ソリューションズ						
営業収益	1,598	1,563	1,601	1,516	1,566	1,521
営業費用および減価償却費	-1,064	-1,054	-1,136	-1,077	-1,069	-1,046
営業総利益	534	509	465	439	497	475
リスク費用	-14	-7	64	4	-3	-11
営業利益	520	502	529	443	494	464
関連会社損益	36	35	51	41	35	9
その他営業外損益	8	4	1	14	1	7
税引前利益	564	541	581	498	530	480
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	8.3	8.3	8.1	8.0	7.9	7.9
富裕層向け資産運用						
営業収益	702	702	738	682	710	706
営業費用および減価償却費	-514	-509	-561	-523	-529	-522
営業総利益	188	193	177	159	181	184
リスク費用	-14	-3	54	3	1	-6
営業利益	174	190	231	162	182	178
関連会社損益	8	7	7	6	12	7
その他営業外損益	6	0	0	10	1	5
税引前利益	188	197	238	178	195	190
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.9
保険						
営業収益	510	538	525	495	475	475
営業費用および減価償却費	-255	-257	-274	-253	-241	-234
営業総利益	255	281	251	242	234	241
リスク費用	0	-4	2	1	-4	-5
営業利益	255	277	253	243	230	236
関連会社損益	29	28	41	35	23	1
その他営業外損益	2	4	0	-2	1	1
税引前利益	286	309	294	276	254	238
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	6.0	6.0	5.7	5.6	5.6	5.5
証券管理						
営業収益	386	323	338	339	381	340
営業費用および減価償却費	-295	-288	-301	-301	-299	-290
営業総利益	91	35	37	38	82	50
リスク費用	0	0	8	0	0	0
営業利益	91	35	45	38	82	50
営業外損益	-1	0	4	6	-1	2
税引前利益	90	35	49	44	81	52
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5



(単位：百万ユーロ)	2Q13	1Q13	4Q12	3Q12	2Q12	1Q12
コーポレートバンキング・投資銀行						
営業収益	2,104	2,461	1,983	2,381	2,230	3,121
営業費用および減価償却費	-1,405	-1,590	-1,525	-1,476	-1,407	-1,901
営業総利益	699	871	458	905	823	1,220
リスク費用	-206	-80	-206	-190	-19	-78
営業利益	493	791	252	715	804	1,142
関連会社損益	3	15	4	15	6	14
その他営業外損益	1	0	1	-7	1	2
税引前利益	497	806	257	723	811	1,158
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	14.8	14.6	16.3	16.7	17.2	18.1
アドバイザリーおよびキャピタル・マーケット						
営業収益	1,257	1,682	1,150	1,576	1,207	2,249
営業費用および減価償却費	-946	-1,179	-1,083	-1,068	-962	-1,474
営業総利益	311	503	67	508	245	775
リスク費用	-83	-14	13	-17	-94	37
営業利益	228	489	80	491	151	812
関連会社損益	-2	9	-1	2	2	9
その他営業外損益	1	0	-2	-7	1	2
税引前利益	227	498	77	486	154	823
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	7.3	7.0	7.9	8.1	8.3	8.8
コーポレートバンキング						
営業収益	847	779	833	805	1,023	872
営業費用および減価償却費	-459	-411	-442	-408	-445	-427
営業総利益	388	368	391	397	578	445
リスク費用	-123	-66	-219	-173	75	-115
営業利益	265	302	172	224	653	330
営業外損益	5	6	8	13	4	5
税引前利益	270	308	180	237	657	335
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	7.6	7.6	8.4	8.6	8.9	9.3
コーポレート・センター（クレピエールを含む）						
営業収益	39	-63	-349	-366	218	-871
営業費用および減価償却費	-172	-273	-333	-263	-152	-180
うち事業再編および変革費用	-74	-155	-174	-66	-104	-65
営業総利益	-133	-336	-682	-629	66	-1,051
リスク費用	18	4	-32	62	2	-29
営業利益	-115	-332	-714	-567	68	-1,080
関連会社損益	-22	-65	31	-15	31	76
その他営業外損益	-6	9	-439	-5	-48	1,676
税引前利益	-143	-388	-1,122	-587	51	672



依然として厳しい欧州の経済環境のなか、株主帰属純利益 18 億ユーロを達成	2
リテールバンキング事業	3
国内市場部門	3
インベストメント・ソリューションズ事業	9
コーポレートバンキング・投資銀行 (CIB) 事業	10
コーポレート・センター	11
財務構造	12
グループのアクションプラン	13
連結損益計算書	16
2013 年度第 2 四半期 - コア事業部門別業績	17
2013 年度上半期 - コア事業部門別業績	18
連結四半期業績の推移	19

本プレゼンテーションに含まれる数値は、未監査の数値です。2013 年 4 月 18 日に、BNP パリバは、2012 年度の四半期決算に関わる修正を発表しました。かかる修正には次の 2 点が特に反映されています：(i) IAS 第 19 号「従業員給付」の改訂は、グループの 2012 年度税引前利益に対して 7 百万ユーロの押し上げ効果をもたらした、その調整額は該当部門および業務の営業費用へ再配分されました；(ii) 一時的にコーポレート・センターで計上していた項目を、部門および業務へ配分しました。これらの修正決算報告において、2012 年度に関わる数値は、あたかも取引が 2012 年 1 月 1 日に実行されたかのように表示されています。本プレゼンテーションは、修正された 2012 年度の四半期数値に基づいています。

本プレゼンテーションには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレゼンテーションに含まれるいかなる予測的な記述も本プレゼンテーション発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。

本プレゼンテーションに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独自に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレゼンテーションあるいはその内容の使用により生じる、もしくは本プレゼンテーションやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。